

府中市生涯学習審議会（平成29年度第6回）会議録

1 日 時 平成30年3月23日（金）午後3時～5時

2 場 所 府中駅北第2庁舎5階 会議室

3 出席者（敬称略）

（1）委員12人

岩久保早苗委員、大谷久知委員、奥野英城委員、木内直美委員、岸定雄委員、北島章雄委員、佐野洋委員、関口美礼委員、相馬一平委員、寺谷弘壬委員、西原珠四委員、三宅昭委員

中西裕子委員、中村洋子委員、長畑誠委員は欠席。

（2）職員5名

五味田文化スポーツ部長、沼尻文化スポーツ部次長、古田文化生涯学習課長、宮崎生涯学習係長、諫山事務職員

4 報告事項

（1）配布資料の確認

資料1 府中市生涯学習審議会（平成29年度第5回）会議録（案）

資料2 平成29年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会
配布資料（抜粋）

資料3 平成30年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会定期総会の開催について

資料4 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査

資料5 府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査（速報値）

資料6 第5ブロック研修会実施状況

（2）前回議事録の確認

各委員に校正を依頼した前回議事録（案）について、市民に公開することが了承された。

（3）平成29年度東京都市町村社会教育委員連絡協議会第2回理事会について

（事務局） 資料2は、2月13日（火）に立川市役所で開催された東京都市町村社会教育連絡協議会第2回理事会の配布資料の抜粋となる。当日は、寺谷会長と諫山、宮崎で出席した。内容について、主なところのみ報告させていただく。

まず、1枚目は平成33年度関東甲信越静社会教育研究大会についてであ

る。府中市が都市社連協の会長市となる平成33年度は、開催地が東京となるので、府中市が会場を用意し、参加者を集めるといったような大きな事務が入ってくる。まだ先ではあるが、来年度から東京都も入っての関係各市との事前打ち合わせ等が入ってくるため、会長にご出席いただくこととなる。皆様にお諮りする案件が出てきたら、ご相談させていただきたい。

続いて、2枚目の「平成30年度年間テーマ(案)」については、まだ案となっている。4月に行われる総会で承認された後に正式な決定となるが、「平成30年度のテーマ(案)」は「知の共鳴～『学ぶこと』『つながること』その先へ」である。これは、学びの多様性を受け入れ、つながりが持つ可能性を広げ、新たな気づきにつながるという思いを込めている。このテーマに沿って、平成30年度にブロック研修会を開催するので、後ほどご意見をいただきたい。

最後に、資料はないが、ブロック研修会開催に伴うブロック活動費について報告させていただく。各ブロックの幹事市には6万円のブロック活動費が支給される予定となっている。会場使用料等については、市で予算計上しているので、ブロック活動費は消耗品の購入や、講演会を実施した場合の講師謝礼等に使用できる。

(4) 平成30年度東京都市町村社会教育委員会連絡協議会定期総会について

(事務局) 平成30年度の都市社連協定期総会が、4月21日(土)の午後1時30分から、立川市女性総合センター・アイムのホールで開催される。内容は、平成29年度の事業・決算報告と平成30年度の事業計画や新役員紹介等で、その後講演会が行われる予定となっている。資料3の3枚目は、「平成30年度役員名簿(案)」となる。府中市は第5ブロック幹事市となるので、新役員紹介の際は、寺谷会長にご登壇いただく予定。本日、社会教育委員の方の出欠を確認させていただきたい。

(挙手にて参加者を確認)

(5) 平成29年度の府中市青少年問題協議会について

(副会長) 平成29年度の府中市青少年問題協議会について、審議会を代表して出席された寺谷会長からご報告いただく。

(会長) 平成29年度第2回府中市青少年問題協議会が、平成30年2月5日に市役所で行われた。高野市長の挨拶の後、講演があった。家庭と非行あるいは犯罪は結びつきやすく、居場所が問題だと言っていた。また、漫画やアニメを見てもそれほど悪くないというように、批判も変わってきたのではないかという質問をしたところ、その通りだということだった。

3 審議事項

(1) 府中市の生涯学習の現状と課題について～府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査結果の速報値報告～

(会長) 市民アンケート調査結果の速報値が出たので、事務局より説明いただく。

(事務局) 審議の前に生涯学習推進計画策定にあたり、平成30年度に、市が委託契約をして、生涯学習推進計画策定の支援を行う民間業者(コンサルタント)を導入することになったのでご報告させていただく。3月の市議会定例会で平成30年度の予算が可決されたため、ご報告がこのタイミングになってしまったことをご理解いただきたい。コンサルタントを導入する理由としては、第3次生涯学習推進計画策定にあたり、今回実施をした市民アンケート結果などの各種データを詳細に分析・活用し、その結果を基礎資料として生涯学習審議会員の皆様からご意見をいただき、計画に反映していきたい。施策の推進がわかりやすくイメージしやすい計画を策定するため、あくまでも支援という立場で専門的なノウハウや知識、経験を持ったコンサルタントに入らせていただきたいと考えている。併せて、審議会用資料の作成や審議会の出席も予定している。あくまでもコンサルタントは、支援という立場になるのでご承知おきいただきたい。

続いて審議事項についてだが、資料4は最終的に市民の方に発送したアンケートとなっている。こちらは後で、結果等と付け合わせしながらご覧いただきたい。資料5は、資料4のアンケートの結果をまとめた速報値となる。これより概要を報告させていただく。

(事務局より資料5「府中市の生涯学習に関する市民アンケート調査(速報値)」の説明。)

(会長) 15分程度黙読した後、結果についての感想等を少し述べていただきたいと思う。1つ質問をさせていただく。人数が空欄の部分は、すべて1名と考えていいのか。

(事務局) 同じような意見をまとめたものは、人数を載せている。それ以外の空欄の部分については1名ずつの回答となっている。13ページ以降については、水色で複数回答、単数回答と表記しており、複数回答部分は人数を記載しており、単数回答部分はすべて1名となっている。

併せて訂正があるので、こちらでご説明させていただく。資料5の5ページと資料4の5ページの問11をご覧いただきたい。資料5の問11の設問に誤りがあり、正しくは『今後、市の「生涯学習」でどのような分野を望みますか。(3つ以内)』という設問になる。続いて、資料5の9ページと資料4の7ページの問18をご覧いただきたい。資料5の問題文の、「自分のために」という部分が、正しくは「自分以外のために」となる。続いて、資料5の10ページと資料4の7問20をご覧いただきたい。資料5の問20の設問に脱字

があり、「言」のみとなっているが正しくは「言葉」である。訂正をお願いします。

(会長) 皆様の感想やご質問等をお聞きしたい。私は、結構スポーツが多かったと感じた。

(委員) 最初に、このアンケートの回答者数についてお尋ねしたい。2,000名中666人で33.3%というのは、市で行うアンケートとしてはどうなのか。印象としては、回答が少なく感じてしまった。

(事務局) 回答率については、今年度策定した文化芸術推進計画の時の市民アンケートでも30%台という回答率であったが、この数字についてはコンサルにも聞くと、このような系統の調査においては比較的高い方だというご意見をいただいている。そういった中で今回33.3%は同等の評価として言えるのではないかと考えている。

(会長) アンケートは郵送で送り、回答して送り返してもらう形で間違いはないか。

(事務局) 資料4のアンケート調査の用紙とご協力をお願いという送付文、返信用封筒を一緒に郵送している。

(委員) 2ページの問2について、「ア・健康・スポーツ」の回答率が高い。また、6ページの問11でも「エ・スポーツ」の回答率が高い。回答者の性別や年齢層を見ると、確かに男性は40代・50代は働いていて、まだスポーツをやりたくてもやることができない層だが、定年が来ると身体を動かすことに非常に興味が出て、色々な事をやりたいというような動きが出てくる。それと女性の場合、子育てが終わると家から出て様々なサークルに入る方が多くなり、さらにスポーツをする方も増える。コンサルタントは、いろいろと分析をしてくれると期待しているのか。これから見えてくるものが知りたいと思った。

(事務局) おっしゃる通り、今回の市民アンケート調査の結果を基礎資料とさせていただきたいと思っている。そして、整理・分析といったところをコンサルにご支援いただき。そして、骨子となる資料をお示しさせていただき、皆様からご意見をいただき、最終的に計画の策定をしたいと思っている。

(委員) 直近の調査は何%だったのか。そういうものと比べると、私としては非常に低い印象で、これは考えるべきところだと思った。どういう層の方が回答してくれたのかという回答の年齢別の割合は出ていないのか。少ない場合は非常にそこが気になる。

(事務局) 2点のご質問の内の1点目については、市政世論調査が平成29年10月に行われた。調査数は1,500で、回収率としては73.5%となっている。そしてもう1点の年齢別等の詳細については、あくまでも今日は速報値としてご報告させていただいているところになる。もう少し細かなところについては4月以降に資料を整えてお示しできればと考えている。

(会長) 今回のアンケートは、無作為に抽出したということだが、地域や性別は無作為に抽出してクラスタになっていると思う。しかし、職業ごとに人数をカウ

トしてはいないと思うが、いかがか。

(事務局) 対象者の抽出にあたり、地域と年齢と性別は偏りが無いように依頼をしている。職業については、把握できていない。

(委員) 30代、40代、50代の同じ人数に対してアンケートを配布したということか。

(会長) 地域、性別、年齢という点を抽出しているので、かなり綿密なアンケート調査になる。職業の分類までは難しい。

(委員) 40代の回答率が一番良いということになるのか。

(会長) 今の所の話だと、そういう事になると思う。

(委員) それは違うのではか。本当にそうか。

(会長) 40代の回答者が多いということか。

(委員) 配布した人数が多いただけの話ではないか。

(事務局) どの世代に何人出したのかという数字が手元に無いため、次回お示しさせていただきます。

(委員) 出てきている結果だけを見ると、有職者は63%なので、30代と40代の回答が多いというのは妥当である。30代と40代で277人、50代と60代で242人なので、大体30代、40代と50代、60代で拮抗した回答が出ている。しかし、有職者が60%近くあるので、50代もかなり有職者の方が回答してきているだろうということが分かる。問2や問4の回答を見てみると、健康、趣味もしくは仕事というふうに分かれているので、比較的有職者からの回答が多かったという傾向が出てきていると思う。速報値なのでいろいろと加工されると思う。例えば、(1)や(3)のような性別、職業というように重なりがないのは比率が良いと思う。年齢のようなものは、比率よりも分布を見た方が良いと思うので、ヒストグラムみたいなものにした方が傾向としては分かりやすいと思う。これからコンサルタントの方も入られるということで、期待したいと思うが、(4)の地域ごとの比率は地図にマッピングして、どこら辺に住んでいる人がどのくらい回答しているのかとすると分かりやすい。そして、3つ以内と回答数を制限して回答してもらったものは、比率よりもトレンドを見たかったので、順序を付けると良いのではないかと思う。次に、回答数が個人に対応している男・女や有職者というのは比率で良いと思うが、1人が何回回答したか分からないものは、比率にしても読み取れるものがないような気がするので、順序別に並べる方が良いのではないのかと思う。そうすると、もう少し見えてくるものがあるのではないか。最後に、問6のような施設は、府中市の中でどこにあるかということを知るようにしてほしい。立地が理由になっているのかがわからない。

(委員) 非常に衝撃的だったのは、回答数が非常に少ないということ。さらに、第2次府中市生涯学習推進計画で最も重要な課題と位置付けた「学び返し」が、このアンケートを見ると85%の人は全く知らないということ。10年計画で進めてきて、このような結果ということが非常に意外。今後、いろいろ考えるう

えで、力を入れて考えないといけないという印象だった。あと、細かい項目については恐らく分析すると思うが、このアンケートでどれだけ次の第3次府中市生涯学習推進計画に反映できるかということが、非常にこの結果を見て疑問に感じた。この結果を詳細に分析する以上に、もう少し根本的なことがあると思った。

- (委員) 『「学び返し」を知らない』と答えた人が85%いて、40代の働いている人が多いアンケートということは、私と同じ意見だなという感想なので、この結果は妥当だと思っている。結果を見てみると「学び返し」については、全体に非常に勉強が好きな感じがする。興味があったから自分で学習活動していて、スポーツ施設を使用して自分の人生を豊かにしようと思って行っている。問6を見ると、1番利用されている施設はルミエール府中の図書館と地域図書館の2つ。働いていて自分の時間がない中で、図書館で本を借りて自分で勉強しているという人が多いと感じた。これからの10年間の計画を立てていく中で、以前から一貫して言っているが個人的には「学び返し」というキーワードではないのではないかと感じている。「学び返し」というのは、余裕がないとできないという印象。問25のマイナスな意見を見ていたが、「時間がないから、やりたくても出来ない」という人が多く、「土日の夜が解放されてないからやりたくても出来ない」というのが働いている40代の率直な感想なのではないかと思う。「学び返し」だとその人たちが取り残されたりしてしまう。もちろん、時間があって「学び返し」をしたい人も2割いるので、その人たちも大事だと思うが、皆がそれぞれいろいろなことに満足できるような10年計画を考えられるといいと思う。有職の人も無職の人も、学生さんから70代・80代の人まで、偏りなく全体を見て10年計画を立てられれば良いと思った。
- (事務局) 今回このアンケートを通して、市民の様々な見方があると感じた。4月以降、更にもう少し分かりやすく資料を分析したものをご提示させていただき、そこでいろいろとご意見いただければと思っている。
- (委員) コンサルタントを起用するにあたり、どういう内容の物をどういうスケジュールで今後依頼していくのかというのは決まっているのか。
- (事務局) 内容については、基本的に今日のアンケート調査がベースとなる。この調査結果を今後基礎資料として、第3次府中市生涯学習推進計画を策定する形にする。
- (委員) コンサルタントはこれに基づいた案を作るのか。
- (事務局) 案というよりも、結果から見えてくる現状や課題等を分析してもらおう。そして、それを資料化して、委員の皆様にもいろいろとご意見をいただくという形になる。たたき台を作ってもらおうが、あくまで最終的に策定するのは、委員の皆様からご意見をいただいた内容が反映される形になる。
- (委員) そのコンサルタントの会社は、生涯学習について他の地域でも検討しているような会社なのか。

(事務局) プロポーザルという形で業者選定をしている。その選定にあたっては、いろいろな提案を企業の方からいただいているが、評価するうえでは、他の自治体での実績といったところも加味をして選定をしている。

(委員) この審議会の役割が段々分からなくなっている。教育委員会から答申を求められていると思うが、それはどうなのか。

(事務局) 基本的には教育委員会からの諮問というベースについては、変わっていないと認識している。あくまでも皆様からご意見いただいたものを作るにあたってのたたき台としてお示しする形になるという理解をしていただきたいと思います。

(委員) 非常にたくさんの要望が載っていて、全部に応えるのはとても難しいことだと思う。見ていて思ったのは、既に生涯学習に取り組んでいる人を見て、そういう活動があるのであれば、やってみたいという方が多いと思う。「施設を使いやすくしてほしい」「情報をもっとわかりやすくしてほしい」などと書いてあった。また、「生涯学習は、自然発生するのがベストと考えます。市の支援は、最低限でよい。」と書いてあった。これは、ありがたいご意見だと思う。まさに自然発生しているものが既にある気もする。しかしながら、市の支援は最低限で良いとは言いが、最低限というのは施設が使いやすくなっているなど、生涯学習が自然発生しやすくなっているというところがとても大切ではないかと思った。世田谷区は、1つのカードで全ての施設の予約ができる。そういう他の市がやっているようなことを見て、少しその部分で府中は遅れており、もう少し使いやすく、情報を共有しやすくなるという部分があると感じた。生涯学習が自然発生しやすくなるためには何ができるのかという観点も非常に大事だと思った。ここで審議して、どんな街にしたいのかというフレーズやテーマを1つ打ち出すというのも良いと思う。例えば「学び返しの街 府中」という看板でもあれば、もっと「学び返し」のことを知っている人もいたかも知れない。何だろうと思った人もいたかもしれない。最初にどういうテーマの街にしたいのかというような審議も面白いと思った。「学び返し」という言葉に対する認知度も低いという話もあったので、そのように考えた。

(会長) 追加で資料5に間違いがあったということで、事務局に説明をお願いします。

(事務局) 資料5の12ページの間28の設問で「サーポタ」とあるが、正しくは「サポーター」。訂正をお願いします。

4 その他

(1) 平成30年度 東京都市町村社会教育委員連絡協議会第5ブロック研修会の概要検討

(事務局) 平成30年度東京都市町村教育委員連絡協議会第5ブロック研修会の概要検討のテーマ(案)が決まった。4月の定期総会後には、第5ブロックの各

市に日程調整を依頼し、内容を詰めていきたいと考えている。

資料6については、過去の幹事市、会場、開催日などを記載している。統一テーマは、都市社連協全体で同じとなっており、内容についてはテーマに沿った形でブロックごとにやっていただくような形となっている。平成30年度は府中市が幹事市となり、会場は以前からご案内の通り市民活動センタープラッツのバルトホールを予定している。日にちは10月27日(土)か11月17日(土)が候補日となっている。統一テーマ(案)が、「知の共鳴～『学ぶこと』『つながること』その先へ」となっている。本日、内容を講演会にするのか、施設見学をするのかといったところで、皆さんにご意見をいただきたい。

(会長) 府中市は何をするのがいいかというようなところをご提案いただきたい。

(副会長) 社会教育委員連絡協議会でやる行事の内容は、社会教育委員として何をすべきかということを従来ずっとやってきた。例えば、山の中に行き行って活動したり、池の中の水さらいをしたりというものも教育委員活動の中に結果的に入っている。そういう内容がいいかどうかを考えると、一番良いのが講演会。社会教育を含む郊外活動についての具体的な話のできる方がいたら、その方向で進んで良いのではないかと。そのような方向に繋がらいいのではないかと。この方向性に、統一テーマである「知の共鳴～『学ぶこと』『つながること』その先へ」という言葉が活かされたら、さらに良いと思う。そういう考えを持ったうえで、具体的な案があれば提案いただきたい。

(委員) 社会教育と生涯学習が大きな曲がり角に来ていると思う。特に文部科学省が平成30年度から制度が変わる。その辺の社会教育行政、生涯学習行政がどうなりつつあるかというのを講演していただける方がいると私たちも大変勉強になると思う。特に文部科学省が言っているのは「人生100年時代」をどう乗り切っていくのかを生涯学習の観点から見るといった講演会はどうか。

(会長) 今まで出席されていない方に説明すると、三鷹市の場合は市長が社会教育審議会の会長だった女性の方で、とても切り込んだ内容を話していた。今は講演会のテーマについてだが、文部科学省の社会教育の曲がり角であると同時に、東京都市町村社会教育連絡協議会も曲がり角であるが、文部科学省と矛盾しないようにする必要がある。話も統一テーマに沿ったようなことでも、大きな枠組みで捉えて少し要素を入れておけば良いと思う。

(委員) 平成24年度は、お囃子の実演はしたのか。府中市は代々住んでいる方が大勢おり、お祭りといったものを通して「学び返し」を長年やってこられた地域ではないかなと思う。言葉は違ってもかもしれないが、お祭りもお年寄りがいらっしゃって、いろいろな意見を聞いてというのが地域である。そういう郷土のことをご存知な学芸員に講演していただくと良いのではないかと感じ

た。

(委員) 非常に外国人が増えているが、どうやって手厚く支援していくかというのが問題になってきている。しかし、なかなか切り口が見つからない。ご提案がいろいろあったが、もう少しダイナミックなことを府中市はやった方が良いのではないかと思う。

(委員) 市と知の共演というと、府中市には東京農工大学と東京外国語大学という2つの大学がある。大学でいろいろと講演などもやっているのではないかと思う。

(委員) 東京外国語大学の事例で言うと、毎年府中市と調布市で講演を依頼されて毎年行っている。府中市は、学ぶ場所としては大学2つと市が管理している美術館や博物館があるので、知の共鳴という部分では非常に優れていると思う。博物館の館長や美術館の館長といった方々もいらっしゃるので、講演会が面白いものにはなると思う。

(委員) この統一テーマは、東京都としてのものなのか。

(会長) 東京都ではなく市町村。23区は入っていない。

(委員) 狛江市の時は講演会ではなく、ワークショップだった。各市からテーマについてどういった取り組みをしているのかをお互いに紹介し合った。それは研修の目的がはっきりしている。一般的な講演を聞くのは、社会教育委員の研修会としてどうかと思う。

(会長) 狛江市は高校が1つしかなく、狛江市から離れてしまう人が多いこともあり、「中学生の居場所について」をテーマとした。調布市は「市民参加の演劇で社会教育を考える」というテーマで、地元の大人も子どもも参加した演劇を行った。その地域の社教連の委員が熱心に裏方を行う。府中市は建物の見学ができれば、来てくれる方も多いと思う。講演者を選ぶなり、府中市のお囃子といった伝統芸能を使うなり、今後いろいろなことを考えていく。

(2) 次回の開催について

候補日として4月25日(水)と4月26日(木)の午後3時からを提示して、予定を伺った。会場は同じく、府中駅北第2庁舎5階の会議室。欠席委員に確認をして事務局で調整し、改めて連絡することとなった。